

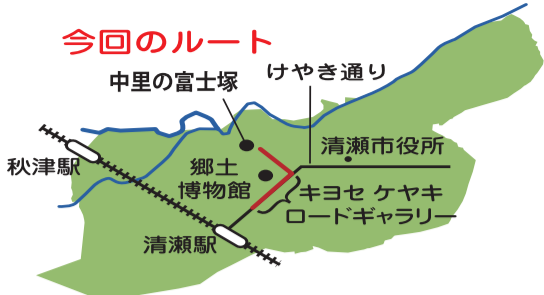
市民ポルタージ

市民編集委員

山本美香 さん

キヨセ ケヤキ ロードギャラリー ～中里の富士塚を歩く

秋と言えば、食欲の秋、読書の秋、芸術の秋…。いろいろとありますが、皆さんはどのような秋の過ごし方がお好みですか。今回は、数々の彫刻が立ち並ぶ「キヨセ ケヤキ ロードギャラリー」から「郷土博物館」を経由し、中里にある富士塚まで歩きます。涼しくなったら、清瀬ならではの「秋」を楽しんでみてはいかがでしょうか。きっと発見があるはずですよ。



「キヨセ ケヤキ ロードギャラリー」から郷土博物館を経由し、中里の富士塚までの道のり(約1km)を歩きました

さまざまな表情のキヨセケヤキロードギャラリー



「キヨセ ケヤキ ロードギャラリー」に設置されている彫刻「幼いキリン・堅い土」と「そのあるかたち'90」

本日の出発地は、清瀬駅北口の「けやき通り」にある「キヨセケヤキロードギャラリー」。けやき通りの両サイドに約1kmに渡り立ち並ぶ、国内外の芸術家による24基の作品たちが、何気ない1日に彩りを与えてくれます。なかでも印象的なのが、首の長いキリンが座る淀井敏夫氏の作品「幼いキリン・堅い土」です。サバナにたたくみ何を思うのか、想像したくなります。また、東京スカイツリーのデザイン監修を務められた清瀬市の名誉市民・澄川喜一氏の作品「そのあるかたち'90」も存在感を放っています。お気に入りの作品を見つけたら、ぜひお話ししてくださいね。

一度で二度おいしい「清瀬市郷土博物館」

「キヨセケヤキロードギャラリー」の途中(500m付近)の小道を左折すると「清瀬市郷土博物館」があります。清瀬の歴史や文化を知るのに欠かせない場所です。展示ホールでは、清瀬市在住のペーパーアーティスト 太田隆司氏の作品をつぶさに見ることができ、常設の展示室では清瀬の自然



古民家を再現した郷土博物館の伝承スタジオ

や文化的伝統について詳しく知ることができ、特に展示ホールに飾られる裂織(織物)は、先人の思いが伝わってくるようでした。また、古民家を再現した伝承スタジオでは、さまざまな年中行事が開催されています。ちょうどこの日、「すす払い(年2回の大掃除)が行われた」と職員の方。神聖な行事の日に居合わせたことに感謝すると同時に、暑いなかの作業に頭が下がる思いでした。一通り見終わったら、喫茶コーナーに今夏デビューした、市内の牛乳とイチゴを使ったスイーツを堪能するのもいいですね。

受け継がれる伝統行事「中里の火の花祭」

更に畑に囲まれた細い路地を左手に進み、住宅街を抜けて坂道を下って行くと最終目的地「中里の富士塚(東京都指定有形民俗文化財)」が見えてきました。早速、鳥居の下にある説明板を読んでみると、江戸時代中期、富士山を崇高し登山を通じて修業する富士講(富士山を信仰する人々が組織する団体)が流行し、各地に富士塚が造られた経緯が記されています。また、この取材が終わった後、毎年9月1日に行われる「中里の火の花祭(東京都指定無形民俗文化財)」の実際の様子を知らたくて清瀬市ホームページの動画コーナーで視聴してみました。動画に



中里の火の花祭のお焚き上げ

歩いた距離は短いものの、身の詰まった今回の取材。何度見ても表情が違う「24基の彫刻」、何度行っても飽きない「郷土博物館」、初めて訪れたのに、なぜか懐かしさを感じる「中里の富士塚」。

特に印象が強かったのは、映像に映る「富士講」の気迫せまる姿。地域住民と一体となり伝統を守る姿に感銘を受けました。知れば知るほど奥の深い「中里の火の花祭」。機会があれば一度、本物を見てみようと思います。

よると、「中里の火の花祭」は「山梨県富士吉田の火祭り」に倣って始められたと言います。9月1日の夜、富士山をかたどった麦わらの山に火を付け、燃え盛る炎で身を清めます。燃えた後の灰は門口にまけば魔よけに、畑にまけば豊作になると伝えられています。白装束を身にまといながらつづらおりの富士塚(高さ10mほど)に登り、山頂で祈りをささげる姿は、今の時代になき魂の祈りが込められていました。皆さんがこの記事を読まれているのは9月1日を過ぎてからかもしれないですが、来年の9月1日は「中里の火の花祭」に足を運んでみてはいかがでしょうか。

取材は昼間でしたが、3つの石碑がまつられる山頂に立った時、神々しい空気を感じ、心が洗われる気持ちになりました。

「ご存じですか?」
「高齢者ふれあいネットワーク事業」
市では、高齢者が孤立することなく、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、「ふれあい協力員」と「民生・児童委員」による声かけ・見守り活動を実施しています。協力員は必要に応じて地域包括支援センターに連絡し、支援に結びつける架け橋となります。また、65歳以上の1人暮らし、高齢者のみ世帯の方を対象に、見守りや訪問などを行う他、3か月に1度、高齢者向けの情報誌「ほろろ」を配布しています。声かけ・見守り活動にご協力いただける「ふれあい協力員」を募集しています。市内在住・在勤・在学の方であればどなたでもお申し込みいただけます。詳しくは左記へ。問合せ 地域包括ケア推進課地域包括支援センター ☎ 497・2082

まちかどニュース

身近なイベントや、まちかど話題を皆さんから募集しています。

「下宿のふせぎ行事」の蛇を野塩地域市民センターに展示

8月18日から、野塩地域市民センターに、東京都指定無形民俗文化財「下宿のふせぎ行事」の蛇を展示中です。



野塩地域市民センターロビーに飾られた「下宿のふせぎ行事」の蛇

平安時代、野塩地区には「悲田処」という、飢えや病気に苦しむ旅行者の救護所があったという説があります。市では、病魔を防ぐために行われている「ふせぎ」の蛇を展示することで、清瀬が古くから地域の医療・健康に寄与してきた歴史を多くの方に知っていただきたいと考えています。

清瀬市の広告貸切電車が運行されました



清瀬のひまわりで埋め尽くされた西武池袋線の車内

8月16日～30日に行われた清瀬ひまわりフェスティバルに合わせて、西武池袋線などで清瀬市をPRする広告貸切電車が運行されました。期間中、2編成(各10両)で運行されていた広告貸切電車の車内は、清瀬のひまわりで埋め尽くされ、多くの方にPRをすることができました。

「きよせひまわりコンサート」を開催

7月11日、清瀬けやきホールで「きよせひまわりコンサート」が開催されました。7月の『社会を明るくする運動』強調月間に合わせて行われたこのコンサートでは、清小・五中吹奏楽部、日本社会事業大学ブラスバンドサークルの演奏が行われ、会場は大きな拍手に包まれました。



好評だった清小・五中・日本社会事業大学の演奏

がんばりすと

各種大会で優秀な成績を収めた方・団体を紹介します。

第48回東京都市町村総合体育大会で清瀬市のチームが健闘

7月19日、下宿第三運動公園サッカー場で、東京都市町村総合体育大会のゲートボール競技が行われ、清瀬市のチームが準優勝を果たしました。チームの方からは、「大会を通して他市町村の方と交流を図ることができて、有意義な機会となりました」と、喜びの声をいただきました。また、同じく7月19日に東京ドームスポーツセンター東久留米(東久留米市大門町二丁目)で行われた男子バレーボール競技では、清瀬市のチームが3位入賞を果たしました。



ゲートボール競技で準優勝に輝いた清瀬市チームの皆さん

「まちかどニュース」「がんばりすと」への投稿を募集中!

応募方法 1日号・15日号ともに掲載希望号の1か月前(いずれも必着)までに、写真(データが望ましい)に説明(いずれも150字程度)を添えて、住所・氏名・電話番号を記入し、直接または郵送、メールで秘書広報課広報広聴係 ☎ 497・1808へ